佐々の戦国時代

郷土史講座「佐々にもお城があった！」

～ 参 考 資 料 ～

1.佐々のお城

2.佐々氏の系図

3.永禄の戦い

4.鳥屋城と東光寺山城

5.二人の英雄と千人堂

● 城とは･･･

山　城　山の地形を利用して築かれた城で、南北朝から戦国期の後半までは山城は城の主流であった。

平山城　平野の中にある山や丘陵に築城された城のこと。山城との区別が難しいがの山城の発展型と捉える場合もある。また丘城ともいう。

平　城　平坦な地形に築かれた城で、防備のため広い堀をめぐらしたり高い石垣を築いたりしている。

近世城郭

水　城　平城に属する、沼・湖・海・河などに築かれる。

● 城の数･･･

佐世保市内

50

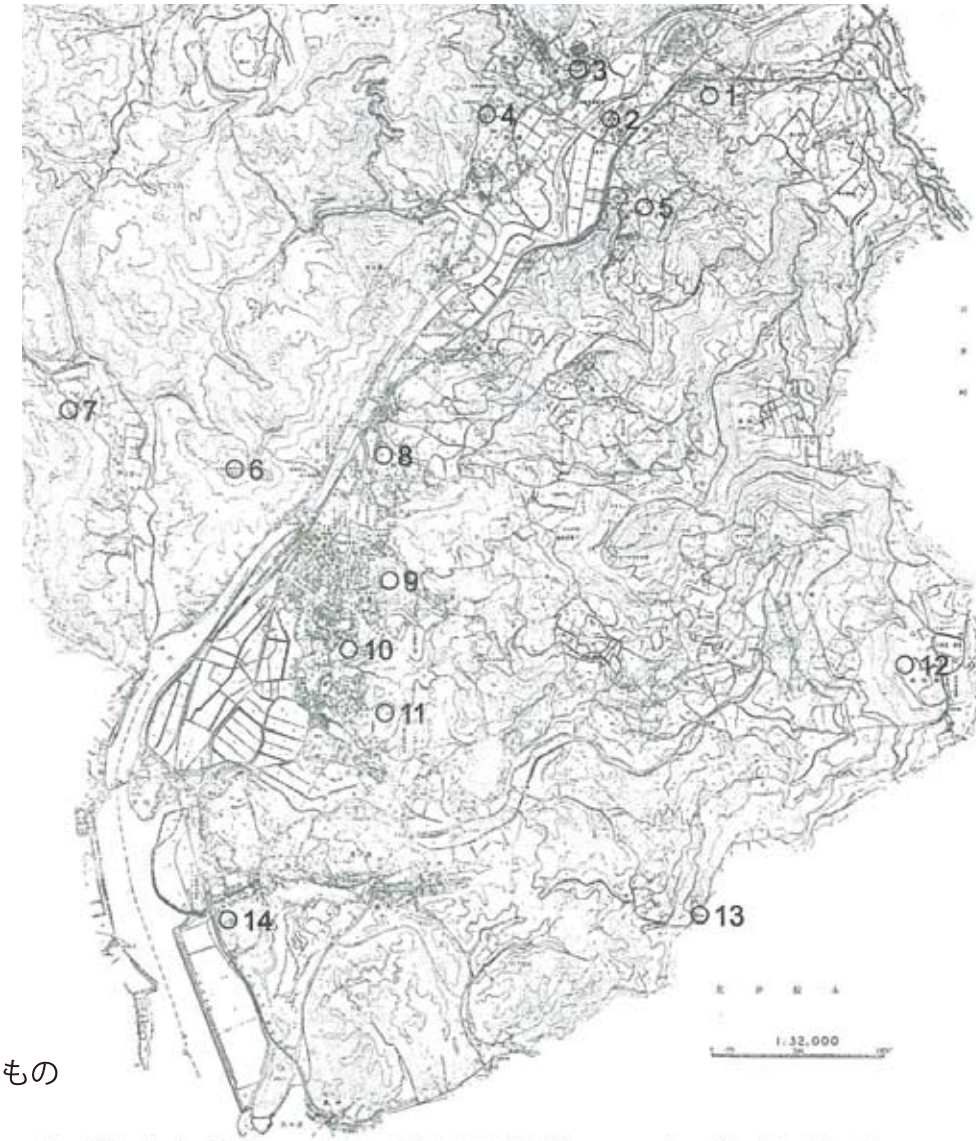
佐々町

10

1. 春ノ山城跡
★ 2. 大日寺
3. 樫付山城跡
★ 4 鳥屋城跡
5. 紫加田氏館跡
6. 野寄城跡
★ 7. 東光寺山城跡
8. 竪山城跡
9. 本陣ヶ岳陣跡
10. 小浦城跡

2.4.7 の遺跡以外は地元の伝承に基づくもので中世の遺構とは断定できていない。

佐々町中世遺跡分布図　佐々町 郷土史より



1	春ノ山城跡	2	旧正興寺跡	3	熊野神社
4	大日寺	5	樫付山城跡	6	鳥屋城跡
7	紫加田氏館跡	8	野寄城跡	9	東光寺山城跡
10	三柱神社	11	竪山城跡	12	本陣ヶ岳陣跡
13	半坂峠	14	小浦城跡		

●佐々相(たすく)

●佐々氏の初代。長門守(ながとのかみ)任命
●1384年松浦党会盟に参加し連署する。

●佐々存(たもつ)

●1421年。会盟に連署し名を残す。
●1467年。領地を平戸の豊久に併合される。

●佐々勝(まさる)

●1491年。箕坪合戦で連合軍の一員として平戸を攻める。
●復活した平戸からの圧迫を受け弘定の弟を養子に迎え佐々氏4代目とする。

●佐々頼(たよる)

●平戸からの養子。同時期、他の一族等も平戸からの養子が入り佐々は平戸の勢力下に置かれる

●佐々元喜(もとのぶ)

●刑部少輔(ぎょうぶしょうゆう)を称す。
●1563年。永禄の戦いにて戦死。

●佐々清左衛門

(早い時期に入道し可雲とも呼ばれる)

●1586年。広田城の戦いで城主として勝利するがのちに大村に攻め入り追撃され金重島で自害する。

●佐々伝右衛門

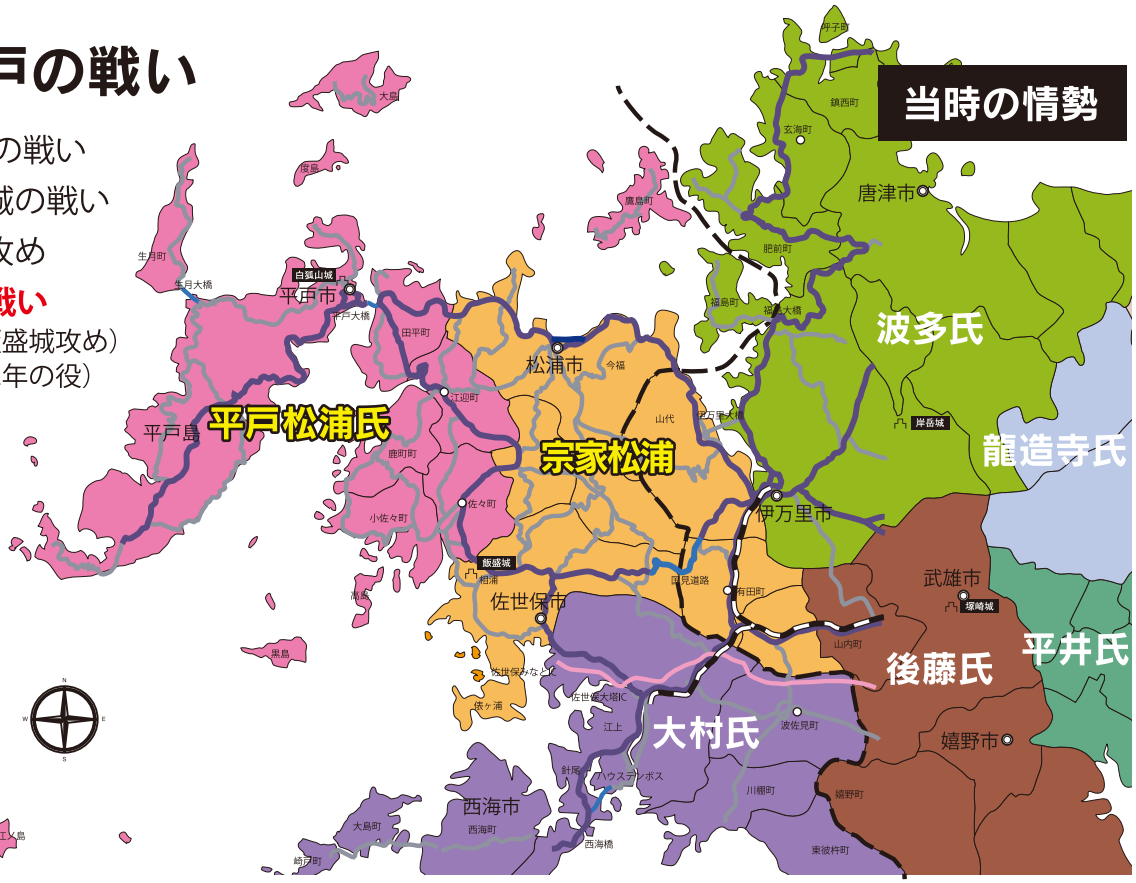
●父に従い広田城で在勤。
●朝鮮出兵を許されず平戸で留守役を命じられる。

●佐々仁兵衛門

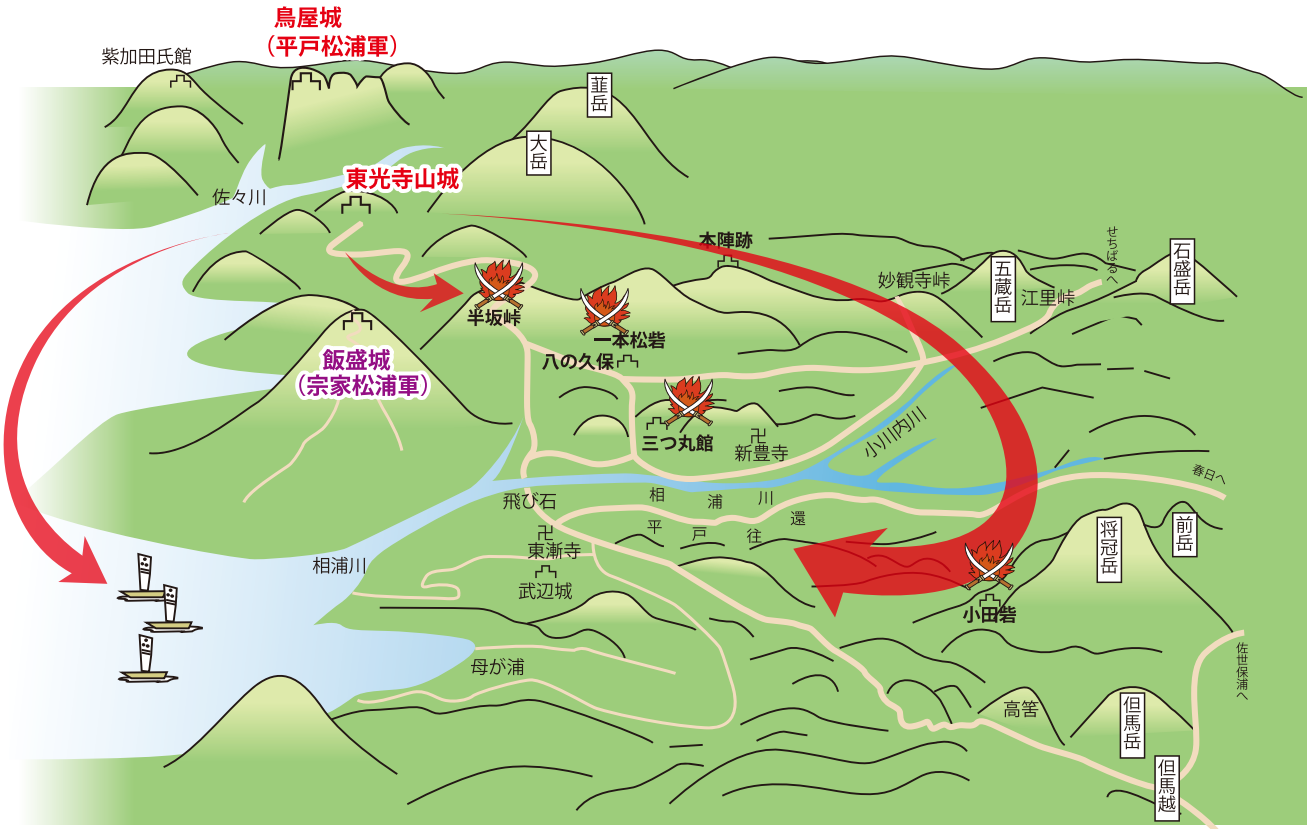
●平戸藩に禄高150石で奉公する。

●宗家と平戸の戦い

1494 年。箕の坪の戦い
1498 年。大智庵城の戦い
1542 年。飯盛城攻め
1563 年。永禄の戦い
（第二回飯盛城攻め）
（相神浦二年の役）



●大まかな戦況図



永禄の戦いは1563年より始まった長期にわたる戦で、2～３年続いたといわれる。この戦の様子は古書で生き生きと描かれており、様々な武将たちがここで登場する。最後は平戸松浦の包囲網による長きにわたる篭城戦の結果、宗家松浦の丹後守親は平戸の松浦隆信の3男の九郎親を養子に迎えることで和睦の道を選んだ。これにより、事実上佐世保相浦地域は平戸の支配下に置かれることになる。

●古書による記述

平戸は「一族都合二百五十騎引率して
佐々村鳥屋城を本陣に構へ大野次郎左衛門
は東光寺に屯す」印山記より

●鳥屋城

■所在地 / 佐々町古川免城ノ辻　■創建者 / 紫加田氏・松浦隆信　■年　代 / 不明
■形　式 / 砦　■標　高 /216m　■遺　構 / 堀切・平場・曲輪
■古図あり　寛政 11 年（1799 年）　松浦資料博物館蔵

古くより、古川岳周辺を住みかにしていた紫加田氏の番城だったと思われる。永禄の役の際に平戸方が本陣を敷いたとされているが、本陣跡と見られる平場は縦21m横15mと極めて居館を置くには狭く、加えて標高216mの急傾斜の山頂に位置しているため、本陣をおいていたとは考えにくい、おそらくは見張り台のようなものがあったのではと思われる。アンテナ塔がたつ前までは、柱穴が残されていたが、今は見ることができない。

●東光寺山城

■所在地 佐々町羽須和免　■創建者 / 佐々 拵（まつたし）・松浦隆信　■年　代 / 不明
■形　式 / 平山城　■標　高 /73m　■遺　構 / 堀切・平場・曲輪
■古図あり　寛政 11 年（1799 年）　松浦資料博物館蔵

古くより、佐々周辺を住みかにしていた佐々氏の番城だったと思われる。永禄の戦いの際印山記では鳥屋城に重きをおいているが実際は東光寺の方が収容人数が多かったのではないかと思われる。地理的に見ても縄張りの範囲から見てもである。「大野次郎左衛門を東光寺に屯す」侍大将である大野次郎左衛門を東光寺に置いたということは実際闘う兵の殆どがここに配置されたのではないかと思われる。

また東光寺には永禄の戦いで討死したとされる紫加田美濃守の墓や、一説にはその美濃守の父といわれ、1467年に佐々を併合したと言われる平戸の松浦豊久の墓がある。

松浦豊久の墓

紫加田美濃守の墓

●紫加田美濃守　平戸松浦豊久の4子

佐々氏から別れた一族志方氏の猛将であったと伝えられる。
佐々を守ったと言われ、美化されている人物。
墓は現在国道沿いの作永衣料店にあったものを東光寺北側の作永家の墓地に移されている。
永禄の戦いで討死する。

●伝育坊　東光寺の僧

古書印山記の「半坂合戦の事」にて登場する東光寺の僧。
永禄合戦の際平戸方として半坂に出陣するがその風体が常人離れしている。

プロフィール

身の丈七尺(2m12cm)　**前身毛むくじゃら**　**黒毛縅(くろいとおどし)の鎧(よろい)**
星白(ほしじろ)の冑(かぶと)を猪首(いのくび)に着こなし　**三尺(1m)の長刀(なぎなた)**　**樫(かしき)木の筋金棒(すじがねぼう)**
目は三角

数多くの敵兵を、樫の木棒で殴り倒すが、最後は深追いしすぎて相手の矢で眉間を打ち抜かれて絶命する。
八の久保町の前川家裏山に墓あり。
千人堂にも墓と供養塔があり、お堂には位牌が祭られている。
伝育のものと伝えられる長刀が東光寺に残されている。

●千人堂　所在地:志方免

伝育坊は志方千人堂の庵寺で育ったと伝えられている。死後その位牌は東光寺に祀ったが、後日志方に妖怪変化が現れるので、伝育坊の霊魂が迷っているのであろうと察した村人が、堂を建て伝育坊の位牌をここに移したのが、千人堂観音像の起源とされている。
千人堂の近くに椎の巨木がある。樹齢700～800年以上のものと推定され、北松一帯でも最大の巨木。永禄当時の戦いを一部始終観戦したものと思われる。
巨木の裏手に平坦な畑地(約700坪位)がありその上方にあったといわれる紫加田美濃守の館の当時の馬場の跡と云われる。
馬場の跡には黒髪神社があり、お墓にしか見えない神社だが、山にあった黒髪神社をここに移したとのことで紫加田一族の霊を祀っている。